

故平山郁夫さんの複製版画40点並ぶ

おい、あすまで

日本画家の平山郁夫さん(1930〜2009年)の作品展が1日、おい町成海のホテルうみんぴあで始まった。写真。シルクロードを題材にした作品などの複製版画約

40点が並んでいる。4日まで。広島県出身で東京芸大学長などを歴任した平山さんは15



歳の時に被爆し、平和への祈りを込めた作品を数多く描いた。長年にわたってシルクロードを取材し、画家としての活動に加え、世界の文化遺産保護にも尽力。国連教育科学

文化機関(ユネスコ)の親善大使も務めた。

今回の展示は平山さんの没後10年特別企画として、絵画の展示、販売を手掛ける「ほるぶエーアンドアイ」(大阪府)が開催。シルクロードを進むキャラバンを描いた代表作「パルミラ遺跡を行く」の「朝」と「夜」のほか、馬に乗った三蔵法師を描いた「仏教伝来」などがある。

同社は「平山さんが作品に込めた平和の祈り、命の大切さを感じてもらいたい」としている。版画作品は販売され、売り上げの一部は東日本大震災子ども支援募金に充てられる。展示時間は午前9時〜午後5時半。入場無料。(小柳慶祥)